



【かく としえ さん】北光  
●北海道ではじめて絵本を点訳するグループである「点訳絵本の会」で10年以上、会長を務めている。点字の読み書きや点訳絵本づくりに興味がある方に、作り方を教えるなどの講習会も行っている。

絵本が好きだからこそ、  
続けてきた点訳絵本づくり

## 点

訳絵本という絵本があることを  
ご存じですか？

点訳した文章や絵を、透明なシールを使って、絵本に直接貼り付けたものです。点訳絵本は、目の不自由な方が子どもに絵本を読み聞かせるために利用されています。

昭和62年から点訳絵本を作り続けている「点訳絵本の会」。

会の代表を務める加來さんは、20年以上、この会で点訳絵本を作り続けています。

「絵本のかわりらしさが好きで、自分の子どもによく読み聞かせていました。何気なく見た、「広報ちとせ」に会を紹介する記事を見つけて、ふと目が止まりました。点字は、全くの素人でした。点字で『あいうえお』

を学ぶところからのスタートでした」と話します。

1冊の点訳絵本を完成させるのに、2か月近くかかる絵本もあると言います。「1冊完成することには味わえる達成感は、やめられないですね。気が付くと、次に点訳する絵本を手に取っています」と語ります。

「点訳絵本づくりでは、絵の点訳が一番難しいです。絵を細かく点訳すると読み手に、分かりにくいですから。また、絵が何をしているか説明する文章も考えます。物語に合った表現を考えながらの作業は難しいですが、やりがいがあります。メンバーと相談しながら、文章を考えることもありますね」と絵本を手に、笑顔の加來さん。

「利尻に住む目の不自由なお母さんから、2冊の絵本の点訳をお願いされたことがあります。子どもがもらってきた絵本を、読み聞かせてあげたいということでした。自分の活動が必要としてくれるうれしさと、お母さんの気持ちを少しでも早く叶えてあげたいという思いで、急いで完成させました」と、うれしそうに話します。

加來さんは、これまでに80冊以上の点訳絵本を作り上げてきました。「これからの目標は？」と聞くと、「100冊作ることです」と力強く答えてくれました。

絵本を前に、今日も点訳絵本づくりに取り組む加來さん。その姿に笑顔があふれていることでしょう。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



加來

KAKU  
TOSHIE

利江

さん